

項目	自己評価	中・長期経営目標	短期経営目標	主な取組内容	取組内容の評価指標	達成状況	改善策	学校関係者評価書	学校関係者評価
確かな学力	A	○全国水準以上の確かな学力の育成	1 基礎学力の定着 2 思考力・判断力・表現力の育成	学力向上のための組織的な校内研修体制づくり ①研究部の各部、教務部の学力調査分析部会と連携し、研究推進の進行管理を行う。 ②児童に「身に付いている力」と「身に付けたい力」を明確にし、学年の系統	①学校評価アンケート(教職員用)で「研修計画どおり実施し、研修が深まった」とする教職員100% ②学校評価アンケート(児童用)「学力が向上した」と回答する児童90%以上(H23:94%)	①「研修が深まった」教職員は100%であった。 ②「学力が向上した」と回答した児童は83.2%で目標には達していない。	①PDCAサイクルによる授業研究を引き続き計画的に行う。 ②単元及び授業の導入で、付けるべき力(学習のめあて)を児童に明確に示し、まとめの段階で、それに対する評価を行う活動を設定する。	・学校全体で学力向上に向けて取り組み、計画通り実施されていることは大変望ましい。学習で分からないことがあれば、辞書など資料を活用して、実力をつける指導もしている。今後も、これを習慣づけていきたい。	A
			子どもにわかる授業づくり(授業づくりスタンダードの活用など)	①授業のスタンダード]により授業の実施、教師も児童も見通しの持てる「ユニバーサルデザインの授業」づくりの研究を実施する。 ②「授業評価表」を活用して授業の検証と改善を行う。	①学校評価アンケート(教職員用)で「分かりやすい授業を実践している」教職員は93.8%、「授業が分かる」児童は88.3%であった。 ②授業評価アンケート(児童用)3.8点(4学年分) ③図書資料を活用した授業実施率は92.9%であった。	①②各学年の課題である学習単元においては、単元の終末で授業評価アンケートを実施する。 ③「身に付ける力」と学習の系統表を再確認し、各指導事項を確実に指導する。			
			学校全体で予習・復習(宿題)の質と量を高める取組	①PTAと連携し、「予習・授業・復習」のサイクル化を図る。 ②学習習慣調査を6月・11月に実施し、その結果を本人・保護者に返す。	①学習習慣調査で「予習・復習をしている」90%以上(H23:予習75%、復習67%) ②学校評価アンケート(保護者用)で「家族ぐるみで子どもの学習環境整備や学習習慣づくりに取り組んでいる」80%以上	①「予習・復習をしている」児童は58.2%・79.7% ②「家族ぐるみで家庭学習習慣づくりに取り組んでいる」保護者は79.1%でほぼ達成。	①目標達成にはとどいていないが、成果が出ているので、引き続き取り組みを続けて行く。 ②家庭への声がけを続けて行く。		
豊かな心	B	○夢や希望をもち、その実現を目指して努力する高い志や態度の育成 ○互いの違いや特性を理解し合い、協力してより良い生活をしようとする心や態度の育成	1 道徳授業の改善 2 自己肯定感や規範意識の向上 3 道徳的実践力の向上	①全担任が道徳の授業研究を行い、授業評価表による検証を活用して授業改善を図る。 ②特別活動や総合的な学習との関連化をいっそう進め、高い志をもつ児童の育成、道徳的実践力の向上を図る。	①道徳アンケートの結果「そう思う」の上昇「道徳の勉強が好き」55%以上(H23:48%) ②「自分には良いところがある」60%以上(H23:54%)、「将来に向かって努力する人間になりたい」90%以上(H23:86%) ③児童に道徳的実践力がついたと実感できる変容が見られる。	道徳意識アンケート(12月調べ)の「そう思う」の割合が ①道徳アンケート「道徳の勉強が好き」53.5% ②「自分には良いところがある」54.2%、「将来に向かって努力する人間になりたい」80.8%となった。 ③「自主的にごみを拾う。トイレの履物の整頓ができた。困っている友達を助けている。」等、児童に道徳的実践力がついたと実感できる変容が見られた。	①さらなる道徳の授業の充実を目指して、これまで積み上げてきたPDCAサイクルを継承していく。 ②道徳の授業で身に付けた道徳的実践力と道徳的実践の指導とを響き合わせて、一人ひとりの道徳性を高めていく。	・3年間の道徳推進校としての取り組みは、道徳向上に大きな業績を残すことができた。 ・向上したレベルが落ちないように、現在の児童の道徳性や道徳的実践力レベルを継続し続けていただくことを期待する。 ・道徳的実践力の向上と、より内面的な向上もともに継続を図っていただきたい。	A
			1 全国平均以上の体力や運動能力の育成 2 基本的な生活習慣・運動習慣の定着 3 危機対応能力の向上	①スポーツテストに関する研修実施と保護者への啓発を行う。 ②体力向上ロードマップを作成し、計画的な向上策を実施する。 ③学期毎に業間体育週間を設け、運動に親しませながら体力向上を図る。 ④外遊びを奨励し、外遊びが活性化する取組を行う。 ⑤生活習慣調査を年間2回(6月・11月)実施して、分析を本人と保護者に返し、定着化を図る。また、高学年で「テレビ・ゲーム視聴プログラム」の取組を実施する。 ⑥避難訓練を改善して実施する。	①体力テストの総合点が全国平均以上 ②「運動することが好き」、「体育の授業が好き」90%以上 ③生活習慣調査で「6時半までに起きる」150%以上 ④テレビ・ゲーム視聴時間1時間以下60%以上 ⑤朝食で「主食・主菜・副菜・汁物」の内、3つまで揃っている190%以上 ⑥避難訓練(地震)実施 4回以上	①体力テストの総合点が全国平均を上回った。 ②「運動することが好き」、「体育の授業が好き」93.8% ③「6時半までに起きる」児童 54.4% ④テレビ・ゲーム視聴時間1時間以下48% ⑤朝食で「主食・主菜・副菜・汁物」の内、3つまで揃っている 52.9% ⑥避難訓練 3回実施	①運動することが好きな児童が多くなっている。けがやトラブルを防ぐためにも運動や遊びのルールをしっかり指導していく。 ②さらに、家庭との連携が取れるような手立てを考えて行く。(例:生活リズムチェックカード等) ③テレビ・ゲーム視聴時間に関して啓発のお便りを流したり、個別指導をしたりしていく。 ④朝食に関してはPTAと連携をして新たな改善策を練っていく。 ⑤実態を踏まえた評価指標の設定が必要。 ⑥地震の避難訓練を増やす。	・体力テストの総合点が全国平均を上回ったことは望ましい。 ・朝食の大切さ、食べ物の大切さ等を児童・保護者に伝え、朝食の内容等の改善となるよう継続してほしい。 ・体育の授業改善や、食育として地産地消の推進を望みたい。 ・テレビ・ゲーム視聴時間は、家庭・保護者と連携して指導を継続し、次年度は目標達成できることを期待する。	
保護者地域との連携	B	○保護者や地域住民の参画を得た学校運営の推進	1 学校の情報を伝える工夫の実施 2 学校支援本部の計画的活用	①学校だより・学級だよりで学校・学級の取組や子どもの育ちを具体的に伝える。 ②学校ホームページの更新をこまめに行い、学校行事や取組を分かりやすく伝える。 ③学校支援本部の活用計画を立て、計画的な実施と振り返りを行い、次年度に生かせるようにする。	①学校評価アンケート(保護者用)で「情報提供を積極的に行っている」90%以上(H23:92%) ②ホームページの更新が年間6回以上 ③学校支援ボランティアの活用延人数300人(H23:298人)	①「情報提供を積極的に行っている」87.1%で、-2.9ポイントであった。 ②ホームページの更新は年間5回であった。 ③学校支援ボランティアの活用延人数は248人(12月末現在)	①HPの更新に関しては、外部からの講師を招いて研修を実施。更新の回数を増やしていきたい。 ②学校支援ボランティアの活用については昨年度同様の人数であったが、スポーツテストの支援など、大変効果があがったものもあり、活用の場を工夫していきたい。	・地震の避難訓練は、校区内の保護者・地域と共同で実施することが、本番に備えて有効だと判断できる。次年度に、一度実施されることを期待する。 ・学校から地域へ、学校支援協力への呼びかけ方法を検討され、広く周知されることを望む。	B
			1 研修機会の確保、内容の工夫 2 PDCAサイクルによる組織的な授業研究の充実	①国語科と道徳で各人年間1回の授業研究を行う。 ②学校事務、学力や体力の向上、特別支援教育など、課題となるものについて、研究部・教務部・学力調査部・体育部などで計画をし、確実な研修の実施と活用を図る。 ③人事評価制度を活用して、各人のライフステージに応じたスキルアップを図る。	①授業評価アンケート(児童用)の結果3.8点(4点満点)以上 ②授業力診断(教職員用:自己評価)で、年度当初の診断結果より年度末の診断結果を上昇させる。 ③人事評価の結果、全教職員が「自己の指導力・職能が向上した」と回答	①授業評価アンケート(児童用)の結果3.8点 ②授業力診断(教職員用)で、年度当初より年度末の結果が上昇した。 ③人事評価の結果、全教職員が「自己の指導力・職能が向上した」と回答した。	①PDCAサイクルによる授業研究を引き続き計画的に行う。 ②教職員として必要な内容について、計画・実施していく。 ③人事評価を活用し、学校の取組と自己目標をリンクさせ、さらに指導力の向上を図っていく。	・教職員の資質向上のため、今後の研修・公開授業は継続していただきたい。 ・人事評価制度の効果的な運用が望まれる。設定した個人の目標が高すぎた場合、途中で修正できるようにすれば、取り組み教員にゆとりができるのではないかと。児童への影響力を考慮して、指導いただきたい。	